

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多部制単位制高校の意義をふまえ、生徒や保護者、地域等の期待に応える教育活動を常に研究しながら、進化する学校をめざす。

- 1 本校のあり方や方向性を検討しながら教育活動を推進し、生徒や保護者、地域等の期待に応える学校をめざす。
- 2 自らの将来に展望を持ち、主体的に学ぶ力を身につけた生徒を育てるとともに、希望する進路を実現できる学校をめざす。
- 3 人権を大切にし、自尊感情を向上させるとともに、社会性（規範意識・ボランティア精神等）を身に付けた生徒を育て、誰もが安心して学べる学校をめざす。

2 中期的目標

1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開

- (1) 現状の分析と生徒・保護者等の期待の把握を行い、方向性を明確化して必要な取組を計画・実施する。
 - ア 生徒の現状を正確に把握するため、生徒・保護者懇談や家庭訪問など家庭との連携を図る。
- (2) 本校の教育活動への理解を促進するため、広報活動の充実を図る。
 - ※ 府内90%以上の公立中学校に本校の案内をする。
- (3) 職員研修の充実により、常に人権意識と教育力の向上を図る。
- (4) 学校協議会や学校教育自己診断などを活用し、保護者・地域等と連携した教育活動を進める。
 - ※ 保護者向け学校教育自己診断の「生徒指導や進路面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定的回答率（平成28年度77%）を平成31年度には80%にして維持する。
 - ※ 地域との連携を深め、地域の事業所等での職場体験やインターンシップを実施する。

2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実

- (1) 希望進路の実現に向けた「学びのシステム」を充実させる。
 - ア 桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」を完成させて実践する。
 - ※ 自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解等の向上（アウトカム指標で全項目プラス評価）
 - ※ 進路未定率の減少（平成28年度と比較して5ポイント以上減少）
- (2) 充実した学びなおしの環境をめざす。
 - ア 多様な学習履歴を持つ生徒の意欲を引き出すため、学校設定科目の増設や習熟度別授業編成を強化
 - イ 希望進路実現のための自学自習の場所提供や補習・講習の充実
 - ウ 学習意欲の向上を図るため、学外の学習機関との連携や学習評価について研究する。
- (3) 生徒の授業評価や授業公開を通して授業力を向上し、全教科で「わかる授業」の実現をめざす。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率（平成28年度71%）を31年度までに80%以上にして維持させる。

3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立

- (1) 「総合的な学習の時間」や特別活動等で人権教育を充実
 - ア 人権教育でフィールドワークやワークショップなどのメニューを開発する。
 - イ コミュニケーション能力を高めるため、自ら考え発信できる教材を開発する。
- (2) 中退防止PTを中心に、現状分析と生徒指導体制を確立する。
- (3) 教育相談体制を充実し、組織的な支援体制を確立する。
 - ア 外部機関との連携を通してカウンセリング体制を強化し、必要に応じたケース会議を持つ。
- (4) 生徒が達成感を実感できる自主活動（生徒会活動、部活動）を充実し、社会性を育成する。
 - ア 生活指導の徹底と自主活動や学校行事などの参加者を増やす環境づくりをめざす。
 - ※ 生徒向けの学校教育自己診断の「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率（平成28年度50%）を平成31年度までに75%以上にして維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年11月実施分]				学校協議会からの意見
結果・分析・課題等（共通項目：数値は肯定的な回答の割合を示す）				<p>【第1回】平成29年6月26日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ももだにプロジェクト」の取組みで、「生きる力」の育成を目標にしているが、どのように育成するのか。 ・授業改善について、他校の取組みを参考に取入れてみてはどうか。 ・授業研究に使える時間が限られていると思う。しかも、新任の先生が多いなかで、例えば活用できるようなデータベース化する等も考えてみてはどうか。⇒検討する。 <p>【第2回】平成29年11月24日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びのシステムの構築」の表の中で5つのアウトカムの中でH28年度新入生の職業観勤労観の低さについて何か分析は？また新入生と在校生で別々の集計結果にした方がわかりやすいのではないか。⇒就労感について検討。集計については来年度変更を検討。 <p>【第3回】平成30年2月2日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度学校評価のC「スモールステップでの成功体験」とは具体的にどのような取組みをしているのか。⇒「生きる力の育成」という観点でキャリアカウンセリングやインクルーシブ教育を基本にして進路指導や特別活動などに重点をおき、クラブ活動等で成功体験をさせる。特別活動や総合の時間においては自ら意欲的に将来のことを考える取組みをしている。 ・アウトカム指標について、全体的に明らかに上がっている。先ほど報告にあったが、自己有用性はそこまで下がっていないため、評価の部分を見直してはどうか。⇒検討する。 ・①入試制度が変わって入学してくる生徒層が変わったということだが、それについてもう少し詳しく知りたい。②府議会で桃谷高校のあり方について議論したということだが、その内容について詳しく知りたい。 <p>⇒ ①入試制度の変化については、アドミッションポリシーというものを設けており、本校ではアドミッションポリシーで半数の生徒が入学することが可能となった。そのため、本校を真に必要なとする生徒が増えたことや行事のしかけにより、学校行事などに参加する率が上がったのではないかと分析している。</p> <p>②年末の府議会の議題に挙げられた 通信制の昼間部に入りたくても倍率が高いため入れない生徒がいる。それについて桃谷高校全体として、何らかの改革が必要。</p>
	生徒	保護者	教員	
学校への意識	86.7%	95.3%	87.5%	
	87.7%	95.3%	97.5%	
学習指導	74.3%	79.0%	97.5%	
生徒指導	80.1%	86.7%	83.3%	
教育相談	64.4%	81.1%	76.2%	
進路指導	79.9%	84.6%	78.6%	
道徳教育	71.9%	78.3%	61.9%	
人権教育	79.0%	86.7%	52.4%	
情報提供		89.6%		
<p>・共通項目のうち、教育相談（生徒：49.8 → 64.4）、学習指導（保護者：69.0 → 79.0）、情報提供（保護者：79.6 → 89.6）等、昨年より肯定率は10%以上上がった。取組みに対する一定の評価が伺える。・今年度追加された「いじめ」に関する対応の結果は、生徒（78.6%）、保護者が（92.2%）であった。引き続き、相談しやすい雰囲気づくり等、日頃からの取組みを充実していきたい。</p>				

府立桃谷高等学校 (CSI II部)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開</p>	<p>(1)保護者等との連携 (2)本校への理解を促進する広報活動の充実 (3)学校力向上のための職員研修の充実 ア 職員研修の実施 イ 教職経験の少ない教員のスキルアップ ウ 参加型研修による実践力の向上 (4)地域連携の一層の推進</p>	<p>(1) ・保護者懇談や家庭連絡を通じて、生徒の状況を正確に把握するとともに、単位修得へと結びつくように指導を行う。 (2) 真に本校を必要とする生徒・保護者に、本校の学校情報を正確に届けるため、文書案内やHP掲載、体験授業や個別相談、学校訪問などの実施。 (3) ア・本校が必要とする教員力を向上させるための研修会の実施 ・研究会等の外部研修の積極的案内と参加及び研修報告会の実施 ・教職員のアイデアを学校運営に反映させるためのコミュニケーションタイムの実施 イ・教職経験3年目までの教員を対象とした、授業力及び校務処理能力のスキルアップを目的とした研修(MMP:桃谷メンタープロジェクト)の実施。 ・3年目までの教員への学校運営を学ぶ研修を学校説明会と学校協議会を活用してOJTで実施。 ウ・人権に関して、参加体験型を含めた研修を行い実践力の向上を図る (4) ・地域等と連携した授業や総合学習等を一層推進する。 ・地域と連携した防災への取組みを推進する。</p>	<p>(1) ・保護者懇談の実施率 前年度の10%増 (H28前期45.5%、後期39.8%) (2) ・中学に文書案内 府内公立中学100%の維持 (H28 100%) ・HP更新回数50回以上 (H28 57回) ・体験授業参加者の肯定的評価 90%以上 (H28 1回目92%、2回目100%) (3) ア・人権及び支援教育に係る研修会を5回以上実施(H28 5回) ・外部研修への参加者数10人以上及び研修報告会回数(新規) ・教職員のアイデア採用件数 イ・研修(MMP)への関係教員の満足度 肯定率80%以上 (H28 87.5%) ・3年目までの教員による学校広報プレゼン、学校協議会記録の作成 ウ・研修参加者の肯定的評価80%以上(H28 82.9%) (4) ・地域等と連携した参加体験型学習の実施回数(H28 22回) ・地域と連携した防災研修の実施 ・防災計画の見直し</p>	<p>(1)保護者懇談(前期41.8%・後期30.4%)、家庭訪問(前期45件・対象123名 後期20件20名)を実施した。(△) (2)学校教育自己診断の「教育情報の提供」に関する保護者肯定率が前年の79.6から89.6%と大きく上昇した。(◎)又、中学校への情報発信100%、HP更新57回、公開授業参加者の肯定率も92.0%であった。(○) (3)ア・人権研修3回、支援研修2回を実施・外部研修参加のべ33人、職員会議での研修報告は10回実施し情報共有を図った。(◎) ・アイデア件数 3件(次年度学校経営計画に採用した件数)(○)イ・MMP研修の対象者8名で年間10回を実施。特に他校(茨田高)に向いての研修は貴重な経験となり、対象者の満足度肯定率(92.0%)であった。(○)・夏季進学フェア(ブース来場者数110人)。4回実施した学校説明会では、紹介プレゼンや個別相談を担当し、本校独自の教育システムについて理解を深めた。説明会の参加者の肯定率は92.0%であった。又、学校協議会の記録も務めHPで公開した。(○) ウ・参加型研修参加者の肯定率100%及び校外FWに参加した生徒の肯定率は90.8%であった。例年継続して取組む研修の成果と捉えている。(○) (4)福祉・家庭・総合学習等、今年も22回実施し地域資源の活用を図った。(○) ・区防災担当と連携し研修や「大規模災害初期対応マニュアル」を作成した。防災研修の参加者肯定率は90.0%であった。(○)</p>
<p>2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実</p>	<p>(1)「学びのシステム」の構築 ア キャリア発達を促す「学びのシステム」の構築 イ 実社会に触れる学びの実践 (2)授業力の向上 ウ 「わかる授業」の視点による授業研究 エ 「確かな学力」を育成する授業の研究 オ 「基礎的・汎用的能力」を育成する授業の研究</p>	<p>(1) ア・桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」での各教科・分掌等の役割の確認及びコンピテンス(育成したい能力)・具体的取組みの設定。 ・コンピテンスに基づくアウトカム指標(自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像)について、新入生の入学時と1年後の肯定率の変化、並びに在校生の肯定率の経年変化の検証を行う。 ・進路実現に向け意欲を高める「キャリア・ガイダンス(進路担当者面談)」及び「キャリア・カウンセリング(担任面談)」の充実 イ・進路説明会において実社会に触れる学びが実現できるよう内容の充実を図る。 (2) ウ・「わかる授業」をテーマにした継続的授業研究。 ・授業見学月間2回実施(6月、1月) ・授業で視聴覚機器やICT機器を活用する。 ・授業で考えをまとめさせたり、発表させる機会を設ける。 エ・教科毎に、授業での「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマとした指導方法を研究。 オ・「基礎的・汎用的能力」を育成する授業をテーマに研究協議を実施。</p>	<p>(1) ア・各教科・分掌等においてコンピテンス・具体的取組等の作成(4月) ・アウトカム指標(自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像)の肯定率について、入学時、1年次、2年次、3年次以降及び卒業予定生の経年変化を調べ、その評価を行う。 ・進路希望未定者の減少10%以下(H28 8.7%) ・進路未定率の減少20%以下(H28 11.4%) イ・進路説明会の参加数の向上5%増及び生徒評価肯定率80%以上(H28参加者9.7%減、肯定率87%) (2) ウ・すべての教科で研究授業と研究協議の実施 ・見学感想票の提出80%以上(H28 84.1%) ・学校教育自己診断(生徒用)「視聴覚機器やコンピュータの活用」70%以上(H28 52.7%) ・学校教育自己診断(生徒用)「授業で考えをまとめたり、発表する機会」60%以上(H28 37.1%) エ・「確かな学力」の指導方法をまとめる(12月) オ・授業アンケート項目「知識技能が身に付いたと感じている」の全教科平均3.2以上(H28前期3.1、後期3.2)</p>	<p>(1) ア・4月に各教科シラバスを始め分掌・委員会等で作成し学校教育計画に反映した。(○) ・H29入学生の1年後の変化は上昇したが、在校生の経年変化では、特に職業観勤労観、将来像について若干減少傾向であった。スモールステップでの成功体験など褒めることを中心として指導に当たりたい。(△) ・進路希望未定者2.8%(12月末)(◎) ・進路未定率8.8%(○) イ・進路説明会4回実施。のべ参加者数899人8%増、参加者肯定率97.0%。学校教育自己診断結果の「進路について考える機会がある」の生徒肯定率は79.9%で前年と比べ10%アップした。併せて、保護者肯定率も84.6%で前年から5%弱アップした。(◎) (2)ウ・実施率100%。見学感想票の提出率は前後期を併せて86.1%であった。(○) ・ICT機器の活用は60.1%、授業中の発表の機会があるは40.4%であった。昨年度からは一定の改善はしたものの、引き続き環境整備の改善に向けて充実を図りたい。(△) エ・指導に関する生徒肯定率(学校教育自己診断)では、「授業はわかりやすく楽しい」が前年の71.8から74.3%に、「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」は前年の78.2から76.9%で大きな上昇には至らなかった(○)・指導方法については、各教科で授業アンケート等を基に検討したが、まとめとして提出するには至らなかった(△) オ・全教科平均は前期:3.2で後期:3.3で維持した。(○)</p>

府立桃谷高等学校 (C S I II部)

<p>3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み 及び人権教育の確立</p>	<p>(1) 総合学習や特別活動等を活用した人権教育の充実と「生きる力」育成の取組み</p> <p>(2)(3) 支援教育・規律指導・教育相談の三位一体による教育活動の展開</p> <p>(4) 社会性育成のための取組み</p> <p>ア 地域の教育資源の活用</p> <p>イ 達成感の得られる自主活動や学校行事の充実</p> <p>ウ 居場所作りと安全・安心の向上</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習プログラムを桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」の中に位置づけ、参加体験型も含めて、H29 新入生全クラスで系統的に実施。 <p>(2)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高校生活支援カード」を活用した「個別の教育支援計画」の作成及び活用。 ・支援検討の専門家及び関係機関の協力を得た支援検討会議の実施。 ・教育相談に関して、学校独自で臨床心理士をSC：スクールカウンセラーとして招聘。教員組織も、教育相談担当を支援検討担当と別に設け充実を図る。 ・関係機関(司法・行政・福祉)等と連携した支援の実施 ・教育相談・支援教育推進のための研修実施 ・支援とカウンセリングの観点を持った毅然とした規律指導。 <p>(4)</p> <p>ア・地域等との交流を深め、地域人材の協力を得た授業や講演、職場体験などの充実を図る。</p> <p>イ・生徒会・部活動・ボランティアなど自主活動の充実を図るための環境整備とアナウンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある行事への工夫・改善 <p>ウ・地域人材の協力を得て図書館の整備を行い、図書館を居場所としての充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習プログラム実施後の生徒評価 肯定率 80%以上 (H28 89.1%) <p>(2)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画」の作成(必要生徒数) (H28 前期 16名、後期 13名) ・支援検討会議の実施回数 (H28 7回) ・SC とのケース検討回数 (H28 0回) ・関係機関を交えたケース会議等の実施回数 (H28 30回) ・教育相談・支援教育に関する研修の実施 2回の維持 (H28 2回) ・指導に対する生徒の納得度 肯定率 80% (H28 75%) <p>(4)</p> <p>ア・連携を行った地域等の機関の数 10ヶ所以上 (H28 10ヶ所)</p> <p>イ・自主活動参加者の向上 前年度部活動参加者の5%増 (H28 6.9%増)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事参加者数の増加(前年度比較)及び参加者の満足度 肯定率 80%以上 (H28 校外学習 肯定率 89.9%) <p>ウ・地域人材の協力を得た図書館整備の実施 (20回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室利用者 年間 3000名以上 (H28 2,852名) 	<p>(1)・人権学習後の生徒肯定率は 91.9%で高い評価であった。又、学校教育自己診断の「人権について考える機会がある」の生徒肯定率も前年の 70.6 から 79.0%に増え取組の成果が伺える。(◎)</p> <p>(2)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成人数(計 12人)、検討会議(5回実施)、ケース会議(実施の必要なケースはなし)、関係機関連携(1月末時点で 42回)、教員研修の実施(2回)に取り組んだ。 <p>学校教育自己診断の保護者肯定率では「先生は子どもの事をよく理解してくれている」が前年の 82.3 から 85.8%に、「学校の生徒指導の方針に共感できる」は前年の 86.6 から 86.7%で維持した。さらに「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる」は前年の 79.6 から 81.1%であった。又、生徒肯定率では、「先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる」が前年の 63.2 から 69.7%に、増え「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」は前年の 49.8 から 64.4%へと大幅に上昇した。(◎)</p> <p>(4)ア・連携を行った機関の数 10ヶ所(○)</p> <p>イ・部活動参加者 89名。人数としては前年 77名で 16%増であった。特に、野球・サッカー・陸上・バドミントン部等は全国大会まで出場し功績を残した。学校教育自己診断の生徒肯定率でも「学校は部活動にも参加しやすいよう工夫している」が 62.8%で昨年の 51.6%を大きく更新した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併せて、校外学習参加数も大幅に増え満足度肯定率は前年の 89.9 から 92.5%へ増えた。(○) <p>ウ・図書館整備の実施回数は 29回(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月末 現在で 2,785人の利用があった。(△)
---	--	--	---	--